

製品名: IL-10R α (リン酸化 Tyr496) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04834**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	63kDa

抗原情報

遺伝子名	IL10RA IL10RA; IL10R; Interleukin-10 receptor subunit alpha; IL-10 receptor subunit alpha; IL-10R subunit alpha; IL-10RA; CDw210a; Interleukin-10 receptor subunit 1; IL-10R subunit 1; IL-10R1; CD antigen CD210
別名	
遺伝子 ID	3587.0
SwissProt ID	Q13651
免疫原	抗血清は、ヒト IL-10R α の Tyr496 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 462-511

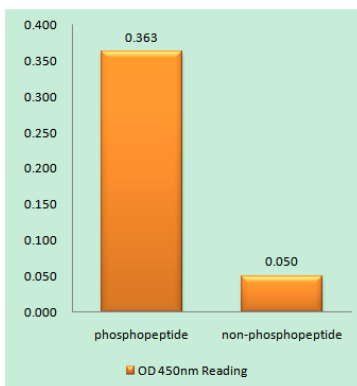
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン 10 の受容体です。このタンパク質は構造的にインターフェロン受容体と関連しています。インターロイキン 10 の免疫抑制シグナルを媒介し、炎症性サイトカインの合成を阻害することが示されています。この受容体は、インスリン受容体基質 2/PI3 キナーゼ/AKT 経路を介して骨髄系前駆細胞の生存を促進することが報告されています。この受容体の活性化は、JAK1 および TYK2 キナーゼのチロシンリン酸化を引き起こします。この遺伝子には、タンパク質をコードするものとタンパク質をコードしないものの 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009 年 1 月]、機能：IL10 の受容体。IL10 に高い親和性で結合します。、類似性：II 型サイトカイン受容体ファミリーに属します。、組織特異性：脾臓、胸腺、末梢血単核球。膵臓、骨格筋、脳、心臓、腎臓では弱い発現が認められる。胎盤、肺、肝臓では中程度の発現レベルが認められる。単球、B 細胞、大顆粒リンパ球、T 細胞では高い発現レベルが認められる。

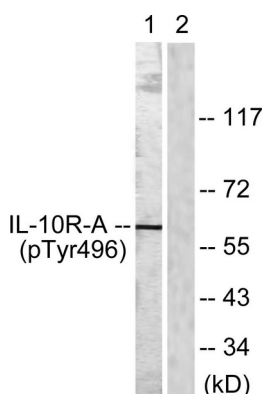
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Jak_STAT;

画像データ



IL-10R alpha (リン酸化 Tyr496) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IL-10R α (リン酸化 Tyr496) 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。